

4、採血

執筆担当：吉澤篤人

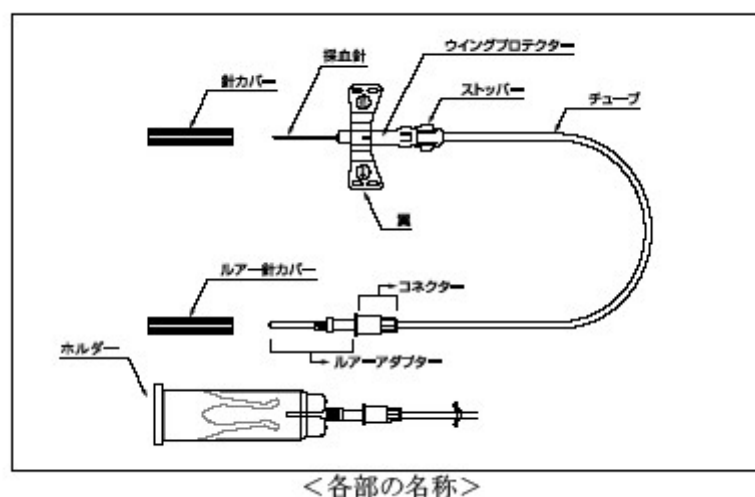
Q4-1:上肢障害の方で採血が難しい人にはどのようにしていますか

サリドマイド胎芽病患者の中には、採血がうまくできなかった経験から、採血や注射に対して強い不安や恐怖心を抱いている方も少なくありません。まず、本人に聞いて過去に何回かうまく採血でき部位があれば、その部位の血管で実施します。穿刺部位に迷う場合は、複数の看護師で確認して穿刺部位を決めます。一度失敗した場合は何度も穿刺せず、医師へ依頼することも必要です。

穿刺が困難だと予想される場合は、穿刺部位を温めてから実施します。下肢で採血する場合はお湯を張ったバスタブで足を温めてから採血することも有効です。

Q4-2:どのようなキットを用いていますか

採血に適した血管がある部位の進展や固定が困難な症例もあるのでニプロ社の「ルアーアダプター付きセーフタッチP S Vセット」を用いて採血しました。



このセットを用いて採血する際は、ルート内にある空気が1本目の採血管に吸引されるため、血算・凝固系などサンプルサイズが小さい採血管は2本目以降に採取することが必要です。

4、採血

図1 右足の第一指の内側からしか採血できない症例（24G）



図2 左膝内側からしか採血できない症例（24G）

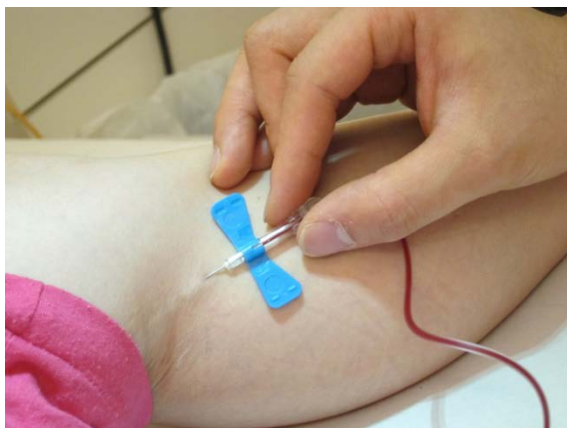


図3 右上肢の皮静脈から採血できた症例（22G）



図1、2について

標準予防策（スタンダードプレコーション）として通常は手袋を装着しますが器具の持ち方や指先の向きをお見せするため、手袋を装着せず撮影しています。